

第3学年*組 道徳学習指導案

指導者

1 主題名 誠実と責任 1—(3)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領の内容項目1—(3)では、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」とある。

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。また、自らを律する力が、自らの責任によって生きる自信と、一個人としての誇りをもつことにつながるのである。中学生の時期は、自主的に考え、行動することができるようになるが、一方で、自分の行為が周囲に及ぼす結果について深く考えることができない面も見られる。そこで、自分や社会に対して常に誠実であろうとする態度を身に付けさせ、自分の行為の及ぼす結果に責任をもつとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

本資料「ネット将棋」(文部科学省「私たちの道徳 中学校」から)は、ネット上で将棋の対戦を通して、実際に目の前にいない相手に対して誠実に向き合えず、自分が対戦に負けそうになると逃げるようにログアウトをする「僕」の様子を描いた作品になっている。そんな「僕」と対照的に描かれている「明子」と「敏和」の行動を明確に対比させながら、自分の行為に責任をもつことの大切さを考えることにつなげることのできる資料である。

(2) 生徒の実態 (男子*人 女子*人)

本学級の生徒は明るく、素直である。中学校生活最後の体育祭を終え、それぞれが熱心に取り組むことができた。最高学年としての自覚が芽生え始めてきている様子が見られるが、中には自ら行動を起こせず、自分の行動が及ぼす影響を考えずに、無責任な行動をとってしまう生徒もいる。事前に行った実態調査の結果は以下の通りである。

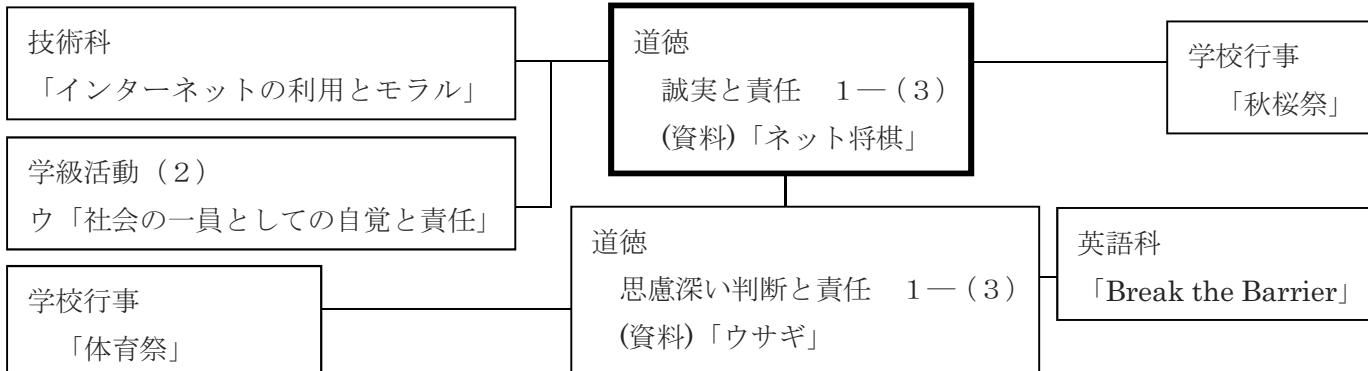
【生徒の意識及び実態調査】

(平成*年*月*日実施 3年*組*人)

- Q1 周りに流されて、自分の意志とは違うことをしてしまったことがある。・ある (*) ・ない (*)
- Q2 Q1 であると答えた人に質問です。それはどんなことでしたか。その時の気持ちはどうでしたか。
- ・予定にはなかったことをしてしまった。 (*)
 - ・学校の規則を破った。 (*)
 - ・友人に対する非難や、中傷。 (*)
 - ・楽しかった。 (*)
 - ・やってしまった。 (*)
 - ・恥ずかしい。 (*)
 - ・嫌な気分。 (*)
 - ・別にいいや。 (*)
 - ・嘘をついてしまった気分。 (*)
 - ・相手に申し訳ない。 (*)
- Q3 Q1 でないと答えた人に質問です。どんな気持ちがあったから、周りに流されなかつたのですか。
- ・友達や先生、親に迷惑をかけたくないという気持ち。 (*)
 - ・善悪を判断しようとする気持ち。 (*)
 - ・自分の弱さに負けない気持ち。 (*)

アンケートの結果から、善悪を判断し、自分の行動に責任をもつと考える生徒は半分に満たないことが分かった。ほとんどの生徒が、後先を考えず、その場の雰囲気や、友人に流されて行動に移してしまう現状が見られた。しかし、その行動の裏には、後悔する気持ちがあることが分かる。そこで、本題材を通して、他者に対して誠実であることの大切さに気付き、責任をもって行動しようとする態度を育てていきたい。

(3) 教育活動全体における道徳の時間との関連



3 本時の学習

(1) ねらい

主人公の「僕」が、友人たちの会話を聞くうちに、自分の未熟さに気付く過程に視点を当てて話し合うことを通して、誠実に実行し、その結果に責任を持とうとする道徳的な判断力を養う。

(2) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	教師の支援及び留意点○、評価●
1 アンケートの結果を基に、誠実な行動について自分を振り返る。 2	・別にいいや、嫌な気持ち、嘘をついたような気持ち。	○ネット将棋について話題にし、読み物資料への関心を高めるようする。
3 読み物資料「ネット将棋」を読み、話し合う。 ○一手一手考え込んでいるふりをして、徹底的に時間稼ぎをしている僕はどんなことを考えているのだろう。	・負けたくない。 ・なぜ、敏和がこんなに強くなっているのだろう。 ・このまま時間が過ぎてほしい。	○恥ずかしい負け方ができないので時間稼ぎをして逃げようとする主人公の気持ちをとらえる。
○ネット将棋でいきなりログアウトした「僕」はどんなことを考えているのだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかつたのは、どんなことを考えているからだろうか。	・まじめにやっていられるか。 ・相手が誰だか分からぬし、また自分が誰かも知られていないから、まあいいか。 ・自分に実力がなくて情けない。 ・これ以上やっても無駄だ。 ・こんなので敏和が強くなったなんて本当なのだろうか。	○一方的に試合をやめてしまう主人公の弱さに、共感できるようにする。 ○すっきりした気分になれない「僕」の心を押さえる。
4 「誠実に生きる」とは何かを考える。	・負けたときに、いきなりログアウトしていたから。 ・ネットで相手が見えないと、相手に失礼なことをしていたのだ。 ・負けから学ぶということなのだ。 ・勝ち負けでなく、相手と誠実に対戦する姿勢が大切なのだ。 ・相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰にでも相手の立場を考えることが必要なのだ。	○「僕の生き方も自分に誠実ではないか」等の問いかけをすることにより、本時の道徳的価値に迫っていけるようにする。
5 教師の説話を聞く。	・自分の気持ちに正直に、最後までやり抜くこと。 ・自分に正直に生きること。	○アンケートの結果を想起し、「誠実に生きるとは何か」を考えられるようにする。 ●自分にも相手にも誠実でいることの大切さに気付き、責任ももって行動していこうと考えているか。 (わたしたちの道徳 p 24~25)
		○本時で学んだことから、実践できるようにする。